



夕暮れの極北の河を渡るカリブー 撮影:星野道夫

没後20年 特別展

星野道夫の旅

Michio Hoshino

2018年2月1日(木) - 3月4日(日)

東大阪市市民美術センター

休館日/月曜日

入場料/500円(中学生以下・65才以上・障害者手帳など持参の方は無料)

開館時間/午前10時~午後5時(入館は午後4時30分まで)

主催/東大阪市市民美術センター(指定管理者:公益財団法人 東大阪市文化振興協会)、朝日新聞社

特別協力/星野道夫事務所

没後20年 特別展

星野道夫の旅

Michio Hoshino

アラスカの大自然を撮り続けた星野道夫。

テレビ番組の撮影のために訪れたロシア・カムチャツカ半島で
不慮の事故により亡くなってから20年余りがたちました。

学生時代にアラスカの大自然に魅せられ、卒業後、アラスカの地に暮らし、
その自然風景、動物たち、そこに暮らす人々の営みを18年間にわたり撮影しました。
写真からは、雄大な大自然の魅力と、過酷ともいえる自然の中で暮らす動物たち、
人々の逞しさが伝わってくるとともに、地球の未来についても考えさせられます。

本展では、約250点の写真とカメラやカヤックなどの愛用品の数々も展示いたします。
星野道夫が辿ってきた世界を感じ取っていただければ幸いです。

関連企画

展覧会初日 2月1日(木) ①午前11時～ ②午後2時～

星野直子氏(星野道夫事務所代表)によるギャラリートーク

※申込不要。但し入場料は必要です。



カリブーの季節移動を待つ星野道夫

星野道夫(ほしのみちお)

写真家。1952年9月27日千葉県市川市生まれ。慶應義塾大学経済学部卒業後、アラスカ大学野生動物管理学部へ入学。以後、アラスカを生活の基礎にして撮影・執筆活動をする。『アニマ』『週刊朝日』『マザー・ネイチャーズ』『家庭画報』『たくさんのふしぎ』など多くの国内誌をはじめ『National Geographic』『Audubon』など海外の雑誌にも作品を発表。第3回アニマ賞、第15回木村伊兵衛写真賞を受賞。96年8月8日、ロシア・カムチャツカ半島での取材中、ヒグマの事故により急逝。享年43歳。

- 1:草むらに潜むグリスリー
- 2:クジラの骨の遺跡とベーリング海に浮かぶ半月(ロシア、チュコト半島)
- 3:氷上でくつろぐホッキョクグマ
- 4:白夜の北極海にクジラを追う
- 5:トーテムボールのそばで草をはむ鹿(カナダ、ハイダ・グワイ)

写真全て 撮影:星野道夫



東大阪市民美術センター

指定管理者: 公益財団法人 東大阪市民文化振興協会 HP: higashiosaka-art.org
〒578-0924 東大阪市長田6-7-22 TEL: 072-964-1313 FAX: 072-964-1596
近鉄奈良線「東花園」駅より北へ徒歩約10分 東大阪市民花園ラグビー場南側